

伊勢湾漁場環境浄化型漁業推進事業 伊勢湾環境保全型ノリ養殖推進事業

岩出将英・坂口研一

目的

三重県の黒ノリ養殖生産の安定化を図るために、生産者に対して養殖環境についての情報提供や病害等の対策を指導するなど、きめ細かな対応が求められている。そこで黒ノリ養殖漁期中において、ノリ漁場栄養塩調査およびプランクトン調査を実施し、その結果を迅速に生産者へ発信するとともに、その後の対応策等についての情報を提供した。

方法

1. 今漁期の気象の特徴について

気温、降水量、日照時間については、津地方気象台発表のデータ(1972~2010)を用いた。

2. 今漁期の海況の特徴および養殖経過について

水温については、三重県水産研究所 鈴鹿水産研究室が実施している午前10時における鈴鹿市白子港の水温測定データ(1999~2010)を用いた。また、黒ノリ漁期中の栄養塩濃度の推移、プランクトンの発生状況については、鈴鹿水産研究室が実施している伊勢湾23主漁場における水質分析データを用いた。

3. 共販結果について

三重県漁業協同組合連合会発表の共販結果データを用いた。

結果

1. 今漁期の気象の特徴

津地方気象台の観測値によると、10月の平均気温は18.5℃、11月は13.0℃、12月は8.3℃と高めで推移した。1月は5.6℃と平年並み、2月は7.0℃と高めで推移した。10月の積算降水量は256.0mmとかなり多く、11月は146.5mm、12月は52.0mmと多めで推移した。1月は12.5mmと少なく、2月は101.5mmと多めで推移した。10月の積算日照時間は175.6hと多め、11月は133.7hと少なめ、12月は180.7h、1月は174.1hと多めで推移した。2月は133.1hと少なめで推移した(表1)。

2. 今漁期の海況の特徴

白子地先の水温は、平年に比べて10月は概ね低めで推移し、11月は平年並み、12月上旬は高めで推移した。12月中旬から2月は平年並みに推移し、3月はやや高めに推移した(図1)。比重は、平年に比べて10月中は平年並みに推移したが、11月上旬から3月にかけて低め~かなり低めで推移した(図2)。

栄養塩環境(桑名地区を除いた伊勢湾のノリ漁場の平均値)の推移について溶存無機態窒素は、11月初旬から中旬にかけて低下したものの、その後は概ね色落ちを引き起こす指標となる30μg/L

を上回る濃度を維持しながら推移した。リン酸態リンについても、漁期中10μg/L以上を維持しながら推移した(図3)。

プランクトンについては、局所的にやや高密度な小型珪藻プランクトンの発生があったものの、赤潮レベルの発生は観察されず、長期的な色落ち被害が起きることはなかった。

表1. 平成20年度月別観測平均値と平年値 (津地方気象台)

津	気温(°C)		降水量(mm)		日照時間(h)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
10月	18.5	17.7	256.0	139.0	175.6	160.8
11月	13.0	12.3	146.5	89.2	133.7	156.1
12月	8.3	7.4	52.0	34.4	180.7	169.7
1月	5.6	5.1	12.5	41.0	174.1	163.9
2月	7.0	5.1	101.5	61.3	133.1	154.6

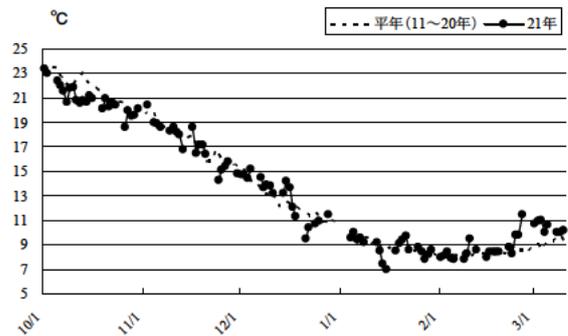


図1. 平成21年度ノリ漁期の白子地先の海水温の推移

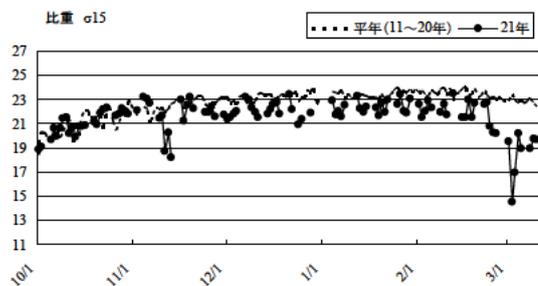


図2. 平成21年度ノリ漁期の白子地先の海水比重の推移

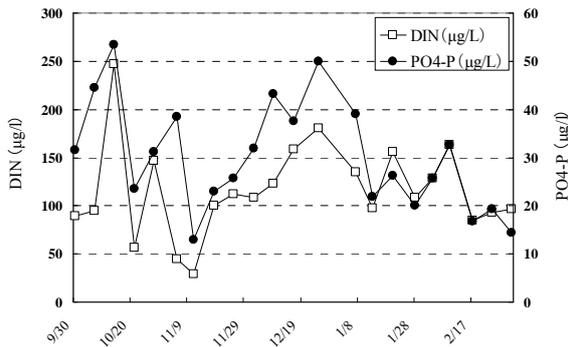


図3. 栄養塩の推移（桑名地区を除く平均値）

3. ノリ養殖経過

今漁期は、平年並みのペースで水温が順調に低下した。育苗は昨漁期同様に順調に行われ、各地とも健全度の高い種網の確保ができた。近年、伊勢湾の黒ノリ養殖漁場で問題視されている漁期中における、植物プランクトンの発生・長期化による栄養塩の低下、重度の色落ち被害は発生しなかった。今漁期においても一時的な色調低下があったものの、長期化することはなかった。

今漁期における海況特徴は、比重が10月中は平年並みに推移したもののそれ以降、11月上旬から3月にかけて平年に比べ低い〜かなり低めで推移した。また、年内生産期において伊勢湾の黒ノリ養殖漁場では、広範囲においてバリカン症様の被害が発生した。特に桑名地区では被害が大きく、年内生産枚数は昨年比で27%、年内生産金額は昨年比18%となった。このバリカン症様の被害は、12月いっぱい継続したものの、年明けからは沈静化し、概ね生産状況も平年並みに推移した。鳥羽地区においては、食害に悩まされた漁場もあったが、伊勢湾全体においては、比較的海況に恵まれた漁期であったと言える。

4. 共販結果

三重県における平成21年度漁期の共販は、全9回開催された。生産枚数は、前年度比82%の約2億4千8百万枚、生産金額は、前年度比85%の21億8千万円であった。平均単価は、前年度比104%の880円であった。

年内生産について昨漁期と比較すると、生産枚数は20百万枚で約53%減少、生産金額は2億21百万円で約53%減少した。これは例年では類をみない広い範囲でのバリカン症様の葉体短縮が発生したことが原因と考えられた。三重県では近年、年内生産が不調になる年が多い中で、特に厳しい結果となった。しかし、今漁期は冷凍網生産期に色落ち被害が少なかったこと、下物の価格が維持されたことから生産金額ベースでは冷凍網生産である程度盛り返すことができた。

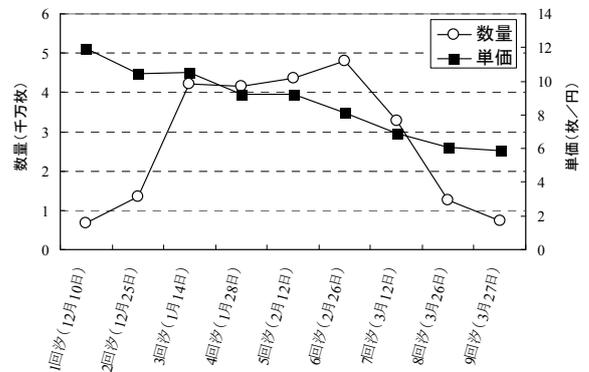


図4. 汐別生産枚数と単価の推移